

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成25年8月1日(2013.8.1)

【公開番号】特開2012-12433(P2012-12433A)

【公開日】平成24年1月19日(2012.1.19)

【年通号数】公開・登録公報2012-003

【出願番号】特願2010-147689(P2010-147689)

【国際特許分類】

C 0 8 L 83/04 (2006.01)

C 0 8 L 83/05 (2006.01)

C 0 8 K 3/36 (2006.01)

H 0 1 L 33/56 (2010.01)

H 0 1 L 23/29 (2006.01)

H 0 1 L 23/31 (2006.01)

H 0 1 L 21/52 (2006.01)

【 F I 】

C 0 8 L 83/04

C 0 8 L 83/05

C 0 8 K 3/36

H 0 1 L 33/00 4 2 4

H 0 1 L 23/30 R

H 0 1 L 23/30 F

H 0 1 L 21/52 E

【手続補正書】

【提出日】平成25年6月13日(2013.6.13)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 2 6 】

(B - 3)成分は、硬化物の硬さを適度に制御するための任意成分であり、平均分子式：  

$$\text{H R}^6_2 \text{SiO}(\text{R}^6_2 \text{SiO})_r \text{Si R}^6_2 \text{H}$$

で表されるオルガノポリシロキサンである。式中、 $\text{R}^6$  はメチル基またはフェニル基である。ただし、全  $\text{R}^6$  の 90 モル % 以上がメチル基である。これは、メチル基の割合が上記範囲の下限未満であると、硬化物が高温で着色を生じやすくなるからである。また、式中、 $r$  は 10 ~ 100 の範囲内の数である。これは、 $r$  が上記範囲の下限未満であると、硬化物に適度な硬さを付与することが難しくなるからであり、一方、上記範囲の上限を超えると、硬化物の機械的強度が低下するからである。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項 5】

光半導体素子が発光ダイオードである、請求項 4 記載の硬化性オルガノポリシロキサン組成物。